

2018年12月11日 サーブリック分析について

**※一言要約： 動作分析で現状把握を行い、疲れの少ない作業にしよう！**

動作分析の代表的な技法に、サーブリック(Therblig)分析(F.B.ギルブレスによって提唱)があり、作業動作を18の基本動作に分け、「休む」「探す」などのロスタイムの作業を減らしていくことに使います。

「動作」とは人間が視覚的に認識できる最小の人間の行動をいいます。

第1類:主として上肢で行い作業に必要な8動作

延ばす、つかむ、運ぶ、放す、位置を決める、使用する、組み立てる、分解する

第2類:主として感覚器官、頭脳で行い作業を遅らせる5動作

探す、選ぶ、調べる、考える、用意する

第3類:作業に不必要な5動作

見出す、つかみ続ける、避け得ぬ遅れ、避け得る遅れ、休む

この分析により、きめ細かい改善や、歩行移動が少ない座り作業、短サイクル作業などの改善に有効となり、加えて、作業中に発生する手、足、腕、目の無駄な動作をなくし、より疲れが少なく効率性の高い作業方法を見いだせるようになります。

また、生産技術者あるいは現場作業者は、動作分析を繰り返し行うことで、動作の必要な要素と不必要な要素を見分け、わずかな無駄も見逃さない分析力を身につけることができます。